

第 1334 回生物科学セミナー

日時： 10 月 28 日(水) 17:05-18:35

演者： 大川 浩作 教授

(信州大学繊維学部)

演題: 海産二枚貝と淡水産昆虫由来の接着性繊維形成機構
について

いくつかの水生生物は、個体を水中表面上に固着するために、付着器官を形成します。このような付着器官は、しばしば、接着・繊維形成能を持ち、生活環の中で役立てられます。当該セミナーでは、イガイ類(写真上)と水生昆虫幼虫(写真下)の2種の接着・繊維形成の分子機構に関する話題をご紹介します。



参考文献

- [1] 大川浩作, 水のなかでくっつくには, 表面・界面技術ハンドブック (監修 西 敏夫, 編集幹事 高原 淳): 材料創製・分析・評価技術から先端材料への応用・環境配慮まで, 第1編 表面・界面をつくるには, 第2章 各論, 第3節, pp.91-96, 株式会社NTS, 東京 (2016).
- [2] Kousaku Ohkawa and Takaomi Nomura, Control of *Limnoperna fortunei* fouling: Antifouling materials and coatings. In “*Limnoperna fortunei*: The Ecology, Distribution and Control of a Swiftly Spreading Invasive Fouling Mussel”, Demetrio Boltovskoy. Ed., Springer NY, Part IV, pp. 395-415 (2015).
- [3] Kousaku Ohkawa, Takaomi Nomura, Ryoichi Arai, Masuhiro Tsukada and Kimio Hirabayashi, Characterization of underwater silk proteins from caddisfly larva, *Stenopsyche marmorata*. In “Biotechnology of Silk –Biologically Inspired Systems–”, Chapter 6, Tetsuo Asakura and Thomas Miller, Eds., Springer, Dordrecht, The Netherlands, pp.107-122 (2013).

場所: 本セミナーは Zoom でおこないます。

参加希望のかたは、UTAS シラバス詳細情報の

「オンライン授業内容」で、Zoom の URL をご確認ください。

担当: 東京大学大学院理学系研究科・附属臨海実験所